

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	① 苗床事業の技術移転による苗木育成産業の振興 ② モンゴル人植林技術者の増加 ③ 緑化・環境保全に対するモンゴル国民の意識の向上
(2) 事業内容	○ 日本人技術者の助言に基づき、土地改良材、土壌試験器など必要な資機材を日本から搬入した。 ○ 苗床事業所用地は、植林地と同様に土壌が硬いため機械（ユンボ）により耕してから肥料を混ぜ、土壌の改良を行っている。 ○ 10月には、モンゴル人30名に対し、植林技術講習及び実習を実施した。内容としては、初回であることから植林の基礎知識と基本的作業手法の習得に力点を集中し実施した。 ○ 当該事業から苗木の育成をじか植えではなく、ポットによる育苗を始めた。気候や土壌環境の厳しいモンゴルでの新たな植林手法として定着させたいと考えている。
(3) 達成された効果	○ 苗木育成業の振興効果 植林技術講習及び実習では、市の緑化担当官も参加しており、やがて市・区の緑化事業への影響（波及効果）が期待され、また先に大統領が全国民に、一人3本の植林を広報されたこともあり、民間モンゴル人受講者から広く国民への啓蒙が期待できる。 この環境保全・緑化の国民意識の向上から、まだ数少ない植木業者の質と量の向上拡大が見えてくると確信している。 ○ 植林技術者の人的増大効果 植林技術講習及び実習により、モンゴル人30名に対し植林技術の基礎を習得させることができた。なお、本体事業である街路樹植林にも、雇用作業員のレベル向上に大いに役立っている。 ○ 緑化・環境保全に対するモンゴル国民の意識の向上 この事業地周辺の住民、学校などからの相談及び問合せが増えており、緑化に対する関心が徐々にではあるが高まってきていることを実感している。
(4) 今後の見通し	○ 3月中旬以降、苗床場兼技術訓練所としてのビニールハウスの建設を開始する。 ○ 苗床施肥、水やり、成育状況のモニタリングを引き続き行い、植林講座（事業期間延長により7月に実施予定）及び植林実習（同じく8月に実施予定）の実施に合わせて必要な苗が十分に生育するよう作業を行う。 ○ 植林講座及び植林実習は、苗の育成、挿し木などの技術に関し、ウランバートル市役所、ハンオル区役所の実務担当者、国立農業大学の学生など約30名を対象に行う予定である。